

令和3年11月17日
(2021年)

保護者の皆様

吹田市立片山小学校
校長 生駒 靖子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。(本内容は学校ホームページにも掲載し、広く公表しています。)

1 教科に関する調査の分析

【国語】

(1) 概要

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「言語の特徴や使い方に関する事項」についての平均正答率は全国値と比較し概ね上回っている。
- ・学力の分布に関しては全国値と比較し、正答数が上回る層がやや多い反面、正答数が下回る層が一定数あり、二極化傾向が見られる。
- ・無回答率は全国値と比較し、国語は高い傾向が見られる。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

話すこと・聞くこと

◇話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考え、目的や意図に応じ、資料を使って話すことはよくできている。

◆国語での活動をベースに、他の教科や生活の場面で生かしていく必要がある。

書くこと

◇自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることは概ねできている。

◆目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。

読むこと

◇文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することは概ねできている。

◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることや、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

言語の特徴や使い方に関する事項

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で概ね正しく使えている。

◆文の中における主語と述語との関係は概ね捉えられているが、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題が見られる。

(3) 国語における今後の改善点について

- ・「話すこと・聞くこと」では資料を用いて効果的なスピーチを構成すること、「読むこと」では文章の構造や内容を基に、必要な情報を見付け、分量などを考えて要約することや他教科も含め、日常的に触れる文章においても、図表やグラフ、写真や挿絵などが文章のどの部分と結びつくのか考えながら読むことを習慣化していく。
- ・「書くこと」では、目的や意図に応じて詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合があること、自分の考えを明確にし、事実と感想、意見と区別して書くなどを意識した取り組みが必要である。
- ・「文の中での語句の係り方」をはじめとした「文や文章の特徴」についての理解を深める必要がある。
- ・漢字学習については、1～2割の児童につまずきが見られることから、低学年からの確実な習得に努める必要がある。
- ・引き続き図書室、学級文庫の利用により読書活動の充実や時事問題への意識付けが必要である。
- ・国語の授業における理解を進めるためにICT機器の活用を一層進めていく。

【算数】

(1) 概要

- ・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域についての平均正答率は全国値と比較し上回っている。
- ・学力の分布に関しては全国値と比較し、正答数が高い子どもの層があり概ね右肩上がりであるが、二極化につながる正答数がやや低い子どもの層も見られる。
- ・無回答率は全国値と比較し、低い傾向が見られる。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

数と計算

◇示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することについてよくできている。

◆小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適応して、基準値を1にしたときに比較量が示された小数にあたる理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

図形

◇複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることについては概ねできている。

◆三角形の面積の求め方や複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することについて、理解度に差が見られる。

測定

◇二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する、条件に合う時刻を求めることはできている。

◆複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることについて課題が見られる。

変化と関係

◇速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること、速さを求める除法の式と商の意味の理解はよくできている。

◆速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことについてできているが、無回答率は全国値を上回っている。

データの活用

◇棒グラフから、数量を読み取ることや項目間の関係を読み取ることにはできている。

◇データを二次元の表に分類整理すること、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述すること、集団の特徴を捉えるために、どのようなデー

タを集めるべきかを判断することはよくできている。

- ◆帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することについて、他の問題と比較し無回答率が高くなっている。

(3) 算数における成果と今後の改善点について

- 本校ではここ数年、抽象的な思考が広がる3、4年生に少人数指導を取り入れ、習熟度別学習を継続することにより、個に応じた指導の充実に努めてきた。すべての設問で全国値を上回るとともに、無回答率においても全国値を下回っている。さらに、状況調査においても肯定的な回答が全国値を上回っていることから全体的に意欲を持って取り組み、理解にもつながっていると考えられる。
- 図形では三角形、平行四辺形等の面積の求め方について、単に公式を覚えるのではなく、図形を構成する要素等に注目して面積の求め方を式や言葉を用いて記述するなど、求め方を文に表すことや、求め方を説明する場面を積極的に設けていく。また、必要な情報を選び出す機会も設けるとともに、読解力の定着を図っていく。
- 数と計算では、問題文をよく読み、どのような解答の仕方を求められているかを読み解く時間を持つことや理由を記述する場合は、解答の道筋を論理的に書く機会を設ける。
- 授業においては引き続き、数学的な問題発見・解決の活動と、数学的な表現を生かしながら互いに伝え合う活動を重視した数学的活動に取り組むとともに、視覚的にもわかりやすい提示や問題解決の手段としてタブレットパソコンの活用を積極的に取り入れていく。
- 低学年では、具体的経験を大切にす操作等により数量や図形を見出す活動を数学的活動として重視していく。
- 学んだことを日常生活や学習に活用しようとする態度を身に付けることも大切である。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向 (良好○ 課題●)

(1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べる」では、ほぼ全児童が「している」と回答し、全国値を上回っている。
- 「定まった時間にあまり就寝しない」と回答した割合が1/4ほどあり、全国値より下回っている。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について「家の人との約束を守っている」と回答した児童は半数を超えているものの、全国値を大きく下回っている。

(2) 自分自身のことについて

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した割合は7割を超えているものの全国値より下回っている。
- 「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は8割を超え、全国値を上回っている。

(3) 学校生活・学習について

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」ではほぼ全員が肯定的な回答で、全国値と同程度である。
- 「学校へ行くのは楽しいと思う」では8割以上が肯定的な回答で、全国値と同程度である。
- 「友達と協力するのは楽しい」ではほぼ全員が肯定的な回答で、全国値より上回っている。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」は7割弱の肯定的な回答で、全国値より下回り、課題である。
- 「(平日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は半数近くが1時間より少ないと回答し、全国値より上回り、課題である。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」は9割以上が肯定的な回答で、全国値と同程度である。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」は8割以上が肯定的な回答で、全国値と同程度である。
- 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりして

いますか」に3/4以上が肯定的な回答で、全国値を上回っている。

- 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に8割以上が肯定的な回答で、全国値を上回っている。
- 「英語が好きですか」に「当てはまらない」と回答した割合が2割あり、全国値を上回っている。国語、算数と比較しても多く、課題である。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」に4割近くが肯定的な回答したものの、全国値を大きく下回っている。

3 今後の取り組み

☆本校学校目標

「自ら学び、命と人権を大切に、すこやかで心豊かな子どもを育成する」

☆学力向上目標

「国語科の授業を通して読む力を育てる」

学校目標に基づいた研究を継続し、教職員が一層子どもたちに主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができるよう、ICTの活用も積極的に取り入れ、授業改善に取り組みます。

【生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向を踏まえて】

- ・「将来の夢や目標を持つ」ことは学習指導要領がねらう「よりよい社会の担い手」の育みにつながっていきます。キャリアパスポートの活用等により、「なりたい自分」を描き、「じぶんのよいところ」に自信をもって何事にもチャレンジしていく態度の育成に努めます。
- ・昨年度から継続実施しているいじめ予防授業により、いじめへの対処法を学び、よりよい行動を増やす、などすべての学年で共通した学びを行っています。成長過程でのよくない行いを早期に修正し、思いやりをもって相手に接するなどの気持ちを育むには、日々の学級指導、集団づくりが要となります。ご家庭との連携も欠かせませんのでご協力のほど、よろしくお願いします。
- ・教科活動においては、概ね前向きな様子が見えませんが、今後さらにICT機器の活用や子ども同士の対話や交流等により、興味・関心を持たせる工夫を行い、子どもたちが主体的に関わっていくことで、楽しい、わかりやすいと思える授業づくりをめざします。
- ・学習に困り感がある児童が一定数あり、学習意欲が低く、家庭学習が足りない傾向が見られます。少人数指導や個に応じた指導の工夫に努めます。
- ・家庭学習については授業の予習・復習を含め、自分で計画を立てて勉強している児童は7割に及ばず、全国値を下回っていることから、宿題はもとより、本校の取組である「自学ノート」の効果的な活用について促す必要があります。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が影響する不安については、日ごろの様子をていねいに見守り、アンケート等も活用しながら気持ちに寄り添えるよう努めていきたいと考えます。ご家庭でお気づきのことがありましたら担任までご相談ください。

一昨年度末の3月から昨年度6月中旬まで、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下のなか、臨時休業となりました。学校再開後、現在にいたるまで、これまで実施できた行事や取組が縮小、削減されるなど、学校生活に大きな影響を受け、当然当該6年生も同様です。地域行事について「ほとんど参加できない」など回答にもそういった困難さが反映されていました。

しかしながら、昨年度12月には1人1台のタブレット端末の配備があり、授業のICT化が始まりました。確実に授業改革は進んでいます。コロナ禍で「これだけしかできない」ではなく、「できることを見つけて精一杯チャレンジしていくこと」を大事にし、教職員が子どもたちとともに前を向いて日々の教育活動を積み上げていきたいと考えます。

保護者の皆様にはこのような状況下においても、多大なるご協力を賜り、学校運営を支えていただいております。子どもたちが毎日登校し、安心して学び続けることができるよう、今後とも一層のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。